



Top Message

ペプチドリームグループ全体での シナジー最大化に向けて 順調に進捗しております。

代表取締役社長 CEO リード・パトリック

Q 2022年12月期の振り返りについて ご説明願います。

売上、利益ともに過去最高収益を達成することができました。

2022年12月期は、創薬開発事業(ペプチドリーム)と放射性医薬品事業(PDRファーマ)の着実な成長により、グループ全体での売上収益は約268億円、Core営業利益は約96億円、親会社に帰属する当期利益は約75億円となりました。

創薬開発事業においては、2022年12月にMSD社とLilly社とのPDC(ペプチドー薬物複合体)に関する新規案件での契約締結が大きく寄与したことにより、過去最高収益を達成することができました。PDCプログラムは、中長期的にも重要な成長ドライバーとなる見通しをもっており、今後も戦略的フォーカスとして注力していきたいと考えております。

また、2022年3月末より新体制でのスタートを開始した放射性医薬品事業については、世界的な規模での原料の供給不足がおこる等、市場環境は必ずしもよくない中ではありましたが、既存製品の拡大等により統合初年度から黒字化を達成することができました。研究開発や事業開発を中心に、ペプチドリームグループ全体でのシナジー最大化に向けて順調に進捗しております。

Q 今後の戦略フォーカスについてお教え下さい。

パイプライン全体のステージアップとPDRファーマとのシナジーの最大化を目指します。

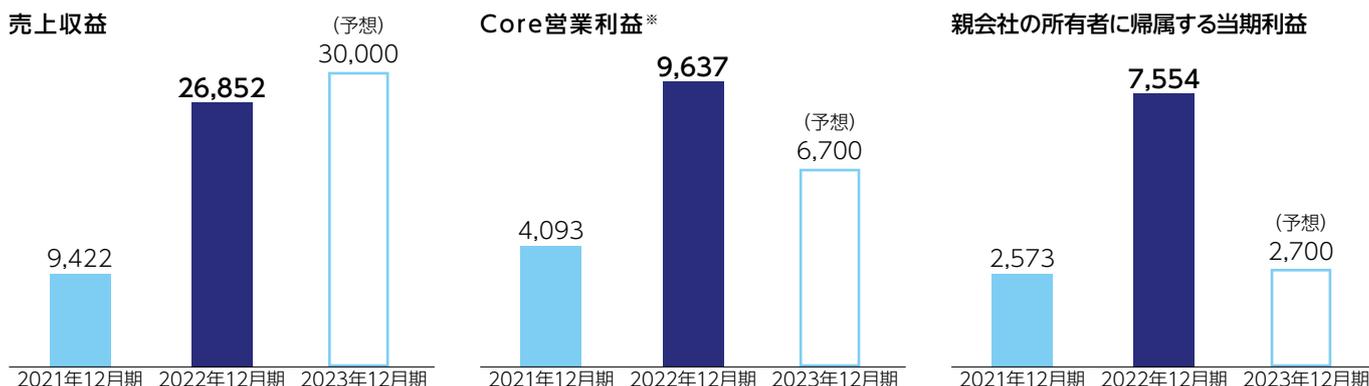
2022年12月期の期初に、3つの戦略フォーカスについて発表させて頂きました。

1つ目の「創薬開発パイプラインのステージアップ、臨床開発入り」については、2022年にはPD-L1阻害剤(BMS)の新たなフェーズ1試験がスタート、PA-001(PeptiAID)については臨床研究の良好な結果報告、RI-PDCの新たな臨床候補化合物の選定やリード・GLPプログラム数が7個増加するなどの研究後期プログラムのステージアップがございました。今後は、臨床プログラムのさらなる進捗や、パイプライン全体のステージアップを優先したリソース配分等を行ってまいります。

2つ目の「PDC(Peptide Drug Conjugate)プログラムのさらなる拡大」については、昨年末のMSD社とLilly社との大型PDCプログラムの締結や、細胞傷害性ペイロードとの組み合わせによる新たなPDCプログラムによるPDCアプローチの幅の拡大等を実現することができました。今後は継続協議を行っているPDCプログラムの契約締結を着実に進めることや、PDRファーマとのシナジーを最大限

2022年12月期 連結業績概要(IFRS)

(単位：百万円)



注) 2022年12月期から国際財務報告基準(IFRS)を任意適用しております。比較のため2021年12月期の数値もIFRSに組み替えて記載しております。

※ Core営業利益は営業利益から企業買収に係る会計処理の影響及び買収関連費用、有形固定資産、無形資産及びのれんに係る減損損失、損害賠償や和解等に伴う損益、非経常的かつ多額の損益、個別製品又は開発品導入による無形資産の償却費を控除して算出しております。

活用したRI-PDCプログラムの拡充／進展、MPC(多機能ペプチド複合体)による新たな展開に向けた種まきを加速してまいります。

最後に「PDRファーマ(放射性医薬品事業)を成長軌道に乗せる」につきましては、2022年12月期は統合初年度からの黒字化達成、既存製品のアミヴィッド®(βアミロイド)に加えてTauvid®(タウタンパク質)の国内共同開発を開始するなどアルツハイマー領域でPET診断の2大分野への重要な布石、また、海外で開発が先行する放射性医薬品の国内での開発・商業化のオプション権を包括的に取得するパイプライン拡充モデルの第一段として2022年8月にRayzeBioとの包括契約を発表いたしました。今後は、適応拡大などの既存製品の価値の最大化はもちろんのこと、今後成長が見込まれる中枢神経領域での事業拡大、中長期的な成長ドライバーとして期待される新たな放射性治療薬の開発を進めてまいります。

放射性医薬品事業の中長期計画をお教え下さい。

統合初年度を転換期、今後2～5年を投資期、6～10年を収穫期として2032年には売上高約400億円を目指します。

2023年2月に、PDRファーマの中長期計画について発表させて頂きましたが、国内放射性医薬品No.1を目指して2032年には売上高約400億円を目標としております。統合初年度は転換期、今後2～5年を投資期、6～10年を収穫期として位置付けております。「新製品で競争のステージを変える(同質製品間の争奪競争から効果・効能等の製品間競争へ)」、「持続的なパイプライン拡充モデルの構築(グローバルネットワークのレバレッジ)」、「長年蓄積してきたインフラ/サプライチェーンの強みを継続的にアップグレード」の3点を戦略的な重点領域として注力してまいります。

直近5年間は黒字水準を維持できる範囲で将来に向けた投資を最大限加速し、2030年までに売上2倍、2032年には過去最高益および利益率の達成を目指します。

サステナビリティへの取り組みについて教えてください。

「気候変動」への取り組みが評価されたことによりCDPで「リーダーシップレベル」の「A-」を取得いたしました。

当社は、環境情報開示に取り組むCDP(カーボン・ディスクロージャー・プロジェクト)の「気候変動プログラム」に2021年から参加しておりますが、環境への継続的な取り組みによりCDP気候変動レポート2022において最上位レベルのリーダーシップレベルである「A-(Aマイナス)」評価を取得することができました。

2022年12月期のサステナビリティへの取り組みは、自社事業活動における「カーボンニュートラル」達成やサステナビリティレポートのリニューアル等、取り組みの推進はもちろんのこと、情報開示のあり方についても進捗のあった1年となりました。

サステナビリティへの具体的な取り組みについては、今年の夏頃に当社WEBページにて更新予定の「サステナビリティレポート」でもお伝えしていきたいと考えております。

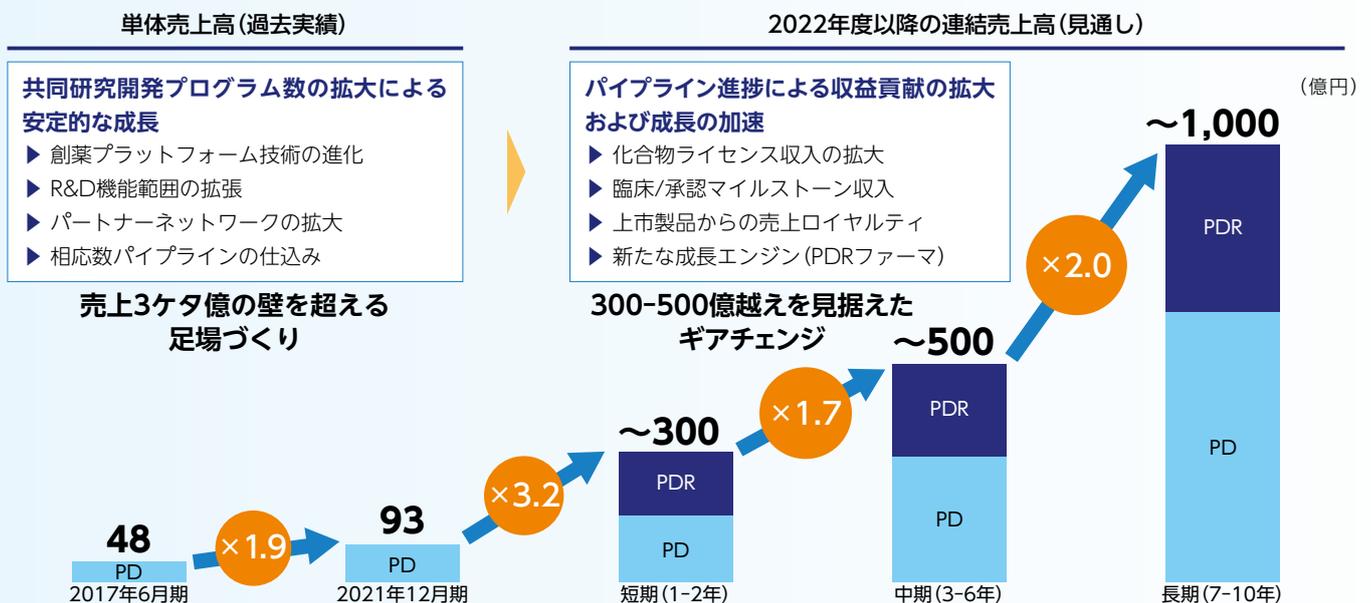
ステークホルダーへのメッセージをお願いします。

当社のグループミッションを策定いたしました。今後もグループ一丸となり企業価値向上に努めてまいります。

グループ全体の中長期的な売上高見通しとしては、短期(1～2年)では300億円、中期(3～6年)では500億円、長期(7～10年)では1,000億円を目指してまいります(下図参照)。

またペプチドリームグループでは、「医療のあり方や患者さんの人生に変革をもたらす次世代医薬品の創出」をグループ全体のミッションとして新たに策定いたしました。今後はグループミッションの実現を社会的使命として、各種事業活動に取り組んでまいります。

今後の新たな成長ステージと売上高規模の見通し



1 Eli Lilly社とのペプチド-薬物複合体(PDC)に関する新規共同研究契約を締結

2022年12月、当社とEli Lilly and Company(以下[Eli Lilly社])との間で、新規のペプチド-薬物複合体(PDC)の創製・開発に関する共同研究およびライセンス契約(以下[本契約])の締結を発表いたしました。

当社は独自の創薬開発プラットフォームである PDPS(Peptide Discovery Platform System)を活用し、目的とする細胞・組織にペイロードを送達するためEli Lilly社が選定した複数のターゲットに対し、高い結合性を有する特殊環状ペプチドを同定します。当社がペプチドの創製・最適化を、Eli Lilly社がペイロードの創製・最適化を実施いたします。本共同研究から創製されたPDC製品の開発については Eli Lilly社が実施いたします。

本契約において、当社はEli Lilly社から契約一時金を受領いたします。また、今後開発、承認、販売マイルストーンフィーとして総額で最大12.35 億ドル(約1,630億円*)を受け取る可能性があります。当社は上記に加え製品化後の売上高に応じたロイヤルティを受領する権利を有します。

*1:1ドル132円として算出

2 MSD社との新規のペプチド-薬物複合体(PDC)の創薬に関する共同研究開発およびライセンス契約を締結

2022年12月、当社と米国ニュージャージー州ラーウェイ市に本社を置くMerck & Co., Inc., Rahway, N.J., U.S.A.(米国とカナダ外で MSDとして知られ、以下[MSD社])の子会社との間で、新規ペプチド-薬物複合体(PDC)の創製・開発に関する複数の創薬ターゲットに対する共同研究開発およびライセンス契約(以下[本契約])の締結を発表いたしました。

当社は独自の創薬開発プラットフォーム技術であるPDPSを用いて同定されたペプチド候補化合物を、MSD社が興味を持つターゲットに対するPDCとして提供することとなります。MSD社は、細胞傷害性ペイロードと結合するペプチド候補化合物について独占的使用権を取得し、本取り組みから創製されるPDC製品の開発の全てを担います。

本契約に基づき、当社はMSD社から契約一時金を受領いたします。また今後、開発、承認、販売マイルストーンフィーとして総額で最大21億ドル(約2,750億円*)を受け取る可能性があります。また当社は、上記に加え製品化後の正味売上高に応じた売上ロイヤルティを受領する権利を有します。

*1:1ドル131円として算出

3 RayzeBio社との戦略的提携プログラムから二つの放射性治療薬開発候補化合物を選定

2022年12月、当社と米国カリフォルニア州に本拠を置き、臨床上検証された固形がんのターゲットに対して革新的な標的型放射性治療薬の開発を行うRayzeBio, Inc.(以下[RayzeBio社])は、両社間の戦略的提携プログラムから一つ目となる、標的型放射性ペプチド治療薬(以下[RI-PDC])の開発候補化合物を選定したことを発表いたしました。

今回選定した開発候補化合物は、固形がんに発現するがん抗原を認識する新規の特殊環状ペプチドと放射性核種の複合体であり、ファースト・イン・クラスのRI-PDCとして期待しています。本化合物は当社の独自の創薬開発プラットフォームであるPDPSを用いて見出され、がんの動物モデルにおいて顕著な有効性を示しました。

また2023年3月には、二つ目となる、RI-PDCの開発候補化合物を選定しました。本開発候補化合物は肝臓がんが発現されるグリピカン3に対する新規のファースト・イン・クラスとなる環状ペプチドと放射性核種の複合体です。

4 PDRファーマと米国Eli Lilly社との間でアルツハイマー型認知症のPET診断薬であるTauvid®に関する日本における共同開発契約を締結

2022年11月、当社の連結子会社であるPDRファーマ株式会社(以下[PDRファーマ])は、Eli Lilly and Company(以下[Eli Lilly社])との間で、アルツハイマー型認知症に関連するタウタンパク質のPET診断薬であるflortaucipir(18F)(米国での商品名: Tauvid®)の日本における共同開発契約(以下[本契約])の締結を発表いたしました。

flortaucipir(18F)は、PET^(*)を用いて脳内の異常蓄積タウタンパク質による神経原線維変化(NFTs)を可視化する放射性診断薬です。flortaucipir(18F)は、2020年5月に米国FDAから製造販売承認を受けており、日本における承認取得後は、PDRファーマが国内での製造販売を担うことを予定しております。今回の提携により、アルツハイマー型認知症領域におけるPET診断薬の活用範囲がより一層拡大していくことを期待しております。本契約の締結に伴い、PDRファーマは契約一時金を受領いたしますが、その金額については本契約に基づき非開示とさせていただきます。

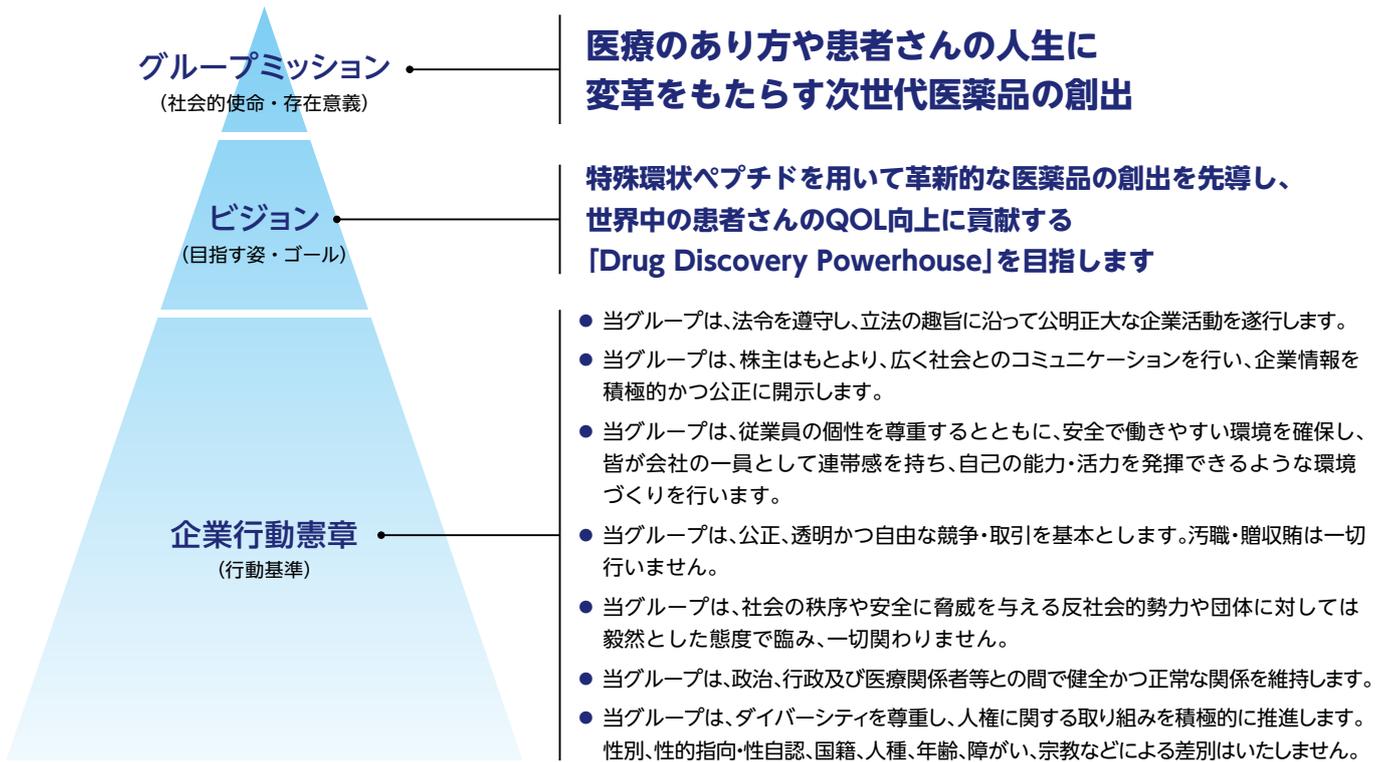
*PET: Positron Emission Tomography(陽電子放出断層撮影)の略で、放射性物質を含む薬剤を体内に投与し体内分布をイメージングする検査。

ESG Topics

Topics 1 ペプチドリームグループとしての新たな企業理念を策定

当社は、創業からの理念を継承しつつPDRファーマを含めたグループ全体での新たな企業理念(グループミッション、ビジョン、企業行動憲章)を策定しました。

当社の独自技術である世界最先端の創薬プラットフォームシステムPDPS(Peptide Discovery Platform System)を基盤に、革新的医薬品の研究開発を先導するとともに、放射性医薬品領域におけるPDRファーマの有する専門性を融合することで人々の健康と医療の発展に貢献し、全世界の病気で苦しんでいる方に「ありがとう」と言ってもらえる仕事に取り組んでまいります。



Topics 2 CDP気候変動レポート2022においてA-の評価を獲得

当社は、環境情報開示に取り組む CDP*から「気候変動」に対する取り組みや情報開示に優れた企業として最上位レベルのリーダーシップレベルである「A-(A マイナス)」評価を獲得しました。

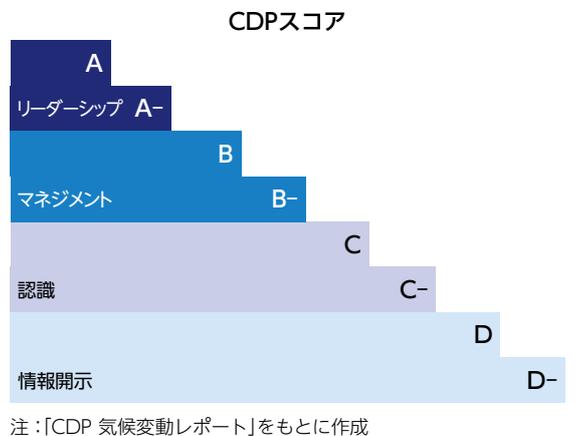
CDPは「気候変動」「フォレスト」「水のセキュリティ」の分野で企業の取り組みや情報開示の質を調査し、「A」から「D-」でランク付けします。2022年は過去最多の約18,700社が調査に回答する中、環境マネジメントで先進的な活動を行っているリーダーシップレベル(A、A-)として高く評価されました。

当社は、気候変動への取り組みを重要課題(マテリアリティ)のひとつに掲げています。2022年1月には、自社事業活動で消費する電力を、実質的にCO₂を排出しない再生可能エネルギーに100%切り替え、自社事業活動における「カーボンニュートラル」を実現いたしました。

引き続き、様々なステークホルダーとの対話を継続しながら、社会全体の持続的成長に向けて事業活動の効率化を促進し、地球環境に配慮した事業活動を推進してまいります。

※CDP(カーボン・ディスクロージャー・プロジェクト):

環境問題に高い関心を持つ世界の機関投資家等の要請に基づき、企業等に対して気候変動、水資源保護、森林保全等の環境問題への取り組みの促進と情報開示を求める活動を行う国際的な非営利団体。



リーダーシップレベル(A、A-)
環境問題の管理においてベストプラクティスを行っていることを示す。環境問題について自社の事業に沿った理解をしており、その認識や実行したアクションについて説明できている。

会社の概要

設立	2006年7月
資本金	3,956,738,000円
事業内容	創薬開発事業、放射性医薬品事業
本社	〒210-0821 神奈川県川崎市川崎区殿町3-25-23 TEL (IR広報)044-223-6612
主要取引先	小野薬品工業(株)、参天製薬(株)、塩野義製薬(株)、 大鵬薬品工業(株)、武田薬品工業(株)、 Alnylam社、Eli Lilly社、Merck社、Novartis社、 RayzeBio社

役員の状況 (2023年3月29日現在)

代表取締役社長 CEO **リード・パトリック**
NRSA 研究員、国立大学法人東京大学先端科学技術研究センター特任助教授、
同大学国際・産学共同研究センター客員助教授及び特任助教授、当社常務
取締役研究開発部担当を経て、現任

取締役副社長 COO **舩屋 圭一**
三菱化学(株) (現田辺三菱製薬(株))、Novartis International AG, Head of PPI
Drug Discovery and Novartis Leading Scientist を経て、現任

取締役副社長 CFO **金城 聖文**
(株)ボストン・コンサルティング・グループ(BCG)パートナー&マネージング
ディレクターを経て、現任

社外取締役(監査等委員) **笹岡 三千雄**
大塚化学(株)探索研究所所長、同社常務執行役員を経て、現任

社外取締役(監査等委員) **長江 敏男**
塩野義製薬(株)、アベンティスファーマ(株) (現サノフィ(株)) 執行役員、ヨーク・
ファーマ(株)代表取締役社長を経て、現任

社外取締役(監査等委員) **花房 幸範**
青山監査法人を経て、アカウンティングワークス(株)設立代表取締役、アークラ
ンドサービス(株)取締役(監査等委員)を経て、現任

社外取締役(監査等委員) **宇都宮 純子**
長島・大野・常松法律事務所、宇都宮・清水・陽来法律事務所パートナー
を経て、現任

株式の状況

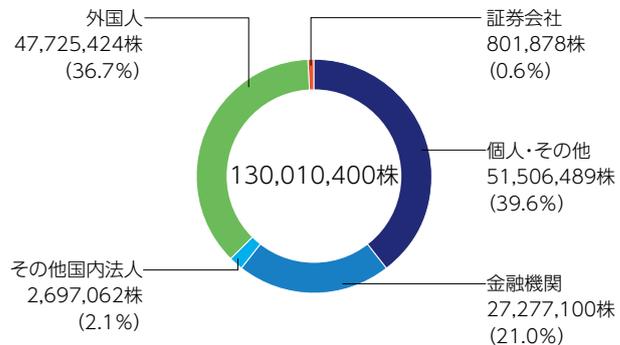
発行可能株式総数	342,400,000株
発行済株式総数	130,010,400株
株主数	30,584名

大株主の状況 (上位10名)

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	15,168	11.67
窪田 規一	13,612	10.47
菅 裕明	12,092	9.30
株式会社日本カストディ銀行 (信託口)	9,705	7.47
TAIYO FUND, L.P.	5,039	3.88
リード・パトリック	4,490	3.45
村上 裕	4,377	3.37
SSBTC CLIENT OMNIBUS ACCOUNT	3,739	2.88
TAIYO HANEI FUND, L.P.	2,520	1.94
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505227	2,167	1.67

(注) 持株比率は自己株式(247株)を控除して計算しております。なお、自己株式の数には、株式給付信託の信託財産として、株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が保有する当社株式179,200株は含まれておりません。

所有者別株式分布



株主メモ

事業年度	1月1日から12月31日まで
定時株主総会	毎事業年度末日の翌日から3ヶ月以内
株主確定基準日	定時株主総会 12月31日 期末配当を行う場合 12月31日 中間配当を行う場合 6月30日
1単元の株式数	100株
株主名簿管理人	三井住友信託銀行株式会社 東京都千代田区丸の内1丁目4番1号 取次所: 三井住友信託銀行株式会社 全国各支店
公告掲載方法	当社の公告方法は、電子公告としております。ただし、事故その他やむを得ない事由により電子公告をすることができないときは、日本経済新聞に掲載して行います。当社の公告掲載 URL は次のとおりであります。 https://www.peptidream.com/

ホームページのご案内



<https://www.peptidream.com/>

ペプチドリーム

検索



ペプチドリーム株式会社

〒210-0821 神奈川県川崎市川崎区殿町 3-25-23
TEL (IR広報)044-223-6612

<https://www.peptidream.com/>

UD FONT

見やすく読みまちがえにくいユニバーサル
デザインフォントを採用しています。